

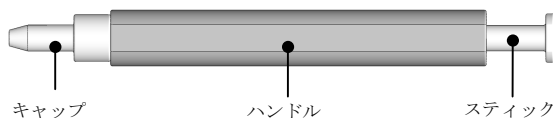
機械器具 5 8 整形用機械器具

一般医療機器 歯科インプラント技工用器材 (70757000)

ジーシー インプラント MS II 技工用インスツルメント

【形状・構造及び原理等】

材質：PEEK（ポリエーテルエーテルケトン）樹脂、ステンレス鋼
 構造：本品は、キャップ、ハンドル、スティックから構成されている。



・ Oリングインサーター

名称	材質
キャップ	PEEK（ポリエーテルエーテルケトン）樹脂
スティック	
ハンドル	ステンレス鋼

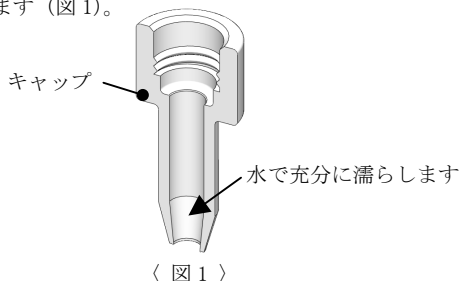
原理：キャップ内にOリング（ゴム製）を設置し、スティックにより押し出すことで、メタルハウジング内にOリングを装填する。

【使用目的又は効果】

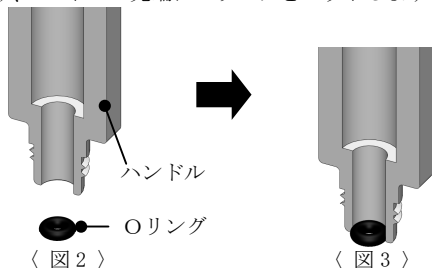
義歯内に埋め込まれたメタルハウジングに、Oリングを装填するために使用する。

【使用方法等】

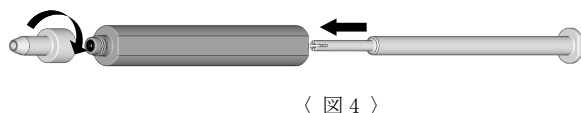
- 1) 滅菌はオートクレーブにて行います。（115～118℃で 30 分、121～124℃で 15 分、126～132℃で 10 分の条件で行います。）
- 2) Oリング^{※1}の滑りをよくするために、キャップ内部を水で十分に濡らします（図 1）。



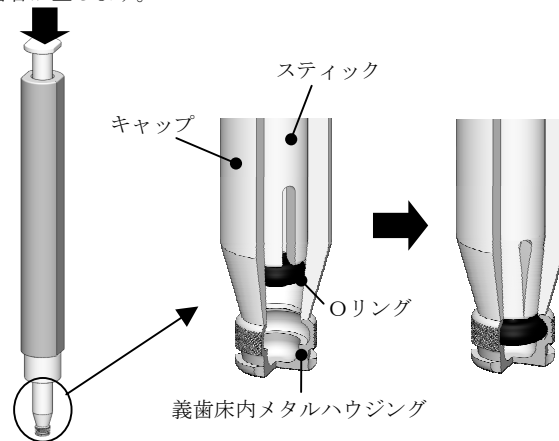
- 3) Oリングを平面上に置き、ハンドルの先端でOリングを軽く押し込み、ハンドルの先端にOリングをセットします（図 2、3）。



- 4) キャップをハンドル先端に嵌合させた後、スティックをハンドル内に挿入します（図 4）。



- 5) キャップ先端を義歯床内のメタルハウジング^{※1}に押し当て、最後までスティックを押し込み、Oリングを装填します（図 5、6、7）。正確にOリングが装填された際の目安として、装着音が生じます。



〈 図 5 〉

〈 図 6 〉

〈 図 7 〉

※1：「ジーシー インプラント MS II」
 （認証番号：223AKBZX00066000）

【使用方法に関連する使用上の注意】

- 1) 購入時は未滅菌のため、使用前に必ず洗浄・滅菌を行い、次回からの使用時にも同様に行うこと。
- 2) Oリング装填の際は、キャップ内部を水で十分に濡らすこと。
 [Oリングとキャップの摩擦により、Oリングが押し出せない恐れがあるため]
- 3) キャップをハンドルにしっかり嵌合させること。[ネジ嵌合が不完全な場合、Oリングが押し出せない恐れがあるため]
- 4) Oリングを1度に2個以上装填しないこと。[1度の操作で装填できるOリングは1個であり、1度に2個以上装填しようとした場合、装填できない、もしくは本品の破損につながる恐れがあるため]
- 5) スティックを挿入する前に、キャップとハンドルを嵌合させること。[先にスティックを挿入すると、Oリングが落下してしまう恐れがあるため]
- 6) スティックの先端がすばむなど変形した場合（図 8）、スティックの先端を細いインスツルメント等で軽く押し広げ、図 9 の状態にすること。[Oリングを装填できない、もしくはスティックの破損を招く恐れがあるため]



〈 図 8 〉



〈 図 9 〉

【使用上の注意】

- 1) 重要な基本的注意
 - ① 本品に対して、発疹、皮膚炎などの過敏症の既往歴のある術者は、本品を使用しないこと。また、使用により過敏症状を起こしたときは、使用を中止し、すぐに医師の診断を受けること。

- ②本品の使用に際しては、使用前にインプラントセミナー等に参加し、必要な知識及び技術を確実に習得すること。また、必ず【使用方法等】を参照の上で使用し、注意・指示事項に従うこと。
- ③本品は、専用のＯリング及びメタルハウジングに対して使用すること。
- ④本品は、使用前に必ず、破損などの支障がないことを確認すること。
- ⑤破損した場合には使用しないこと。
- ⑥本品使用后、所定の消毒・洗浄・滅菌を行うこと。
- ⑦本品の加工、改造をしないこと。
- ⑧本品は、【使用目的又は効果】に記載の用途以外には使用しないこと。
- ⑨本品は、歯科医療有資格者以外は使用しないこと。

【保管方法及び有効期間等】

〔保管方法〕

- １）本品は、歯科の従事者以外が触れないように適切に保管・管理する。
- ２）本品は、清潔で湿度が高くない場所にて保管・管理する。
〔汚染及び錆を防ぐため〕
- ３）本品は、水分が付着したまま保管しない。〔汚染及び錆を防ぐため〕

〔使用期間〕

- １）本品を使用中に破損した恐れのある場合には、すぐに使用を中止し、新しいものと交換する。

【保守・点検に係る事項】

- １）本品は使用后、分解して洗浄・滅菌をする。
- ２）本品は、使用後に流水下で予備洗浄を行い、その際に付着物等をブラシなどで完全に除去する。次に、必要に応じて消毒剤（下記３）参照）に一定時間浸漬させ消毒する。消毒剤をよく落とした後に、洗浄剤（下記３）参照）に浸漬させたまま一定時間超音波洗浄をする。洗浄剤を流水下でよく落とした後に、精製水に浸漬させて再び一定時間超音波洗浄する。超音波洗浄後は十分に乾燥させ、滅菌する。
- ３）消毒剤及び洗浄剤の濃度、浸漬時間、温度などの使用方法は、各メーカーの指示に従い、正しく使用する。
消毒剤は下記のものをお薦めします。

- ・キャップ、スティック
グルコン酸クロルヘキシジン（５％ヒピテン®液など）
- ・ハンドル
グルタラル製剤（ハイドリット®20w/v%液など）、
グルコン酸クロルヘキシジン（５％ヒピテン®液など）、
防錆効果のある四級アンモニウム塩系消毒剤（塩化ベンザルコニウム、塩化ベンゼトニウムなど）

下記の消毒剤は、錆・変色の影響が高いので使用できません。

- ・キャップ、スティック
グルタラル製剤（ハイドリット®20w/v%液など）
- ・ハンドル
過酢酸製剤（アセサイド®MA 6%消毒液など）、塩素系消毒剤（次亜塩素酸ナトリウムなど）、過酸化物質系消毒剤（オキシドール、強酸性水など）、防錆効果のない四級アンモニウム塩系消毒剤（塩化ベンザルコニウム、塩化ベンゼトニウムなど）、防錆効果のない両性界面活性剤系消毒液

洗浄剤は下記のものをお薦めします。

- ・キャップ、スティック、ハンドル
防錆効果のある洗浄剤、酵素系洗浄剤（ハイジーンウォッシュなど）

- ４）洗浄を行った後には、錆の発生を防止するため、直ちに水気を拭き取り保管する。
- ５）滅菌はオートクレーブで行う。
- ６）滅菌はチャンバー内に器具を詰め込みすぎず、適度な数量にて行う。なお、乾熱滅菌は、高温になり劣化の原因になるので使用しない。
- ７）滅菌後は錆がないか点検し、錆が認められた場合には、新しいものと交換する。また、手指・未滅菌品と接触させない。

- ８）錆、変色などの恐れがあるため、以下のことについて留意する。
 - ・最終洗浄は、精製水を使用する。
 - ・湿度が高くて自然乾燥に時間を要する場合には、ドライヤーなどで強制的に乾燥させる。
 - ・汚れ、水分、洗浄剤などが付着したまま滅菌しない。
 - ・オートクレーブ滅菌の場合には、精製水を用い、水道水は使用しない。
- ９）錆びた本品は、汚染を引き起こす可能性があるため、錆びていない器具と一緒に滅菌しない。

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売元：株式会社シオダ

発売元：株式会社ジーシー

住所：〒113-0033

東京都文京区本郷３丁目２番１４号

電話番号：（お客様窓口）0120-416480